

## 発刊に当たって

平成三十年七月十二日、兵庫県は、慶応四年五月二十三日に兵庫県庁が設けられてから百五十周年の節目を迎えました。平成三十年度には、官民を挙げて県政百五十周年記念事業を展開したところです。この「兵庫県百五十周年記念 兵庫県史」この五十年の歩み」は、その一環として、県政百年の折に刊行した「兵庫県百年史」以降の昭和四十二年から今日までの五十年の兵庫県の足跡を記し、編纂したものです。

この五十年間、兵庫県は激しい時代の変化を乗り越えながら、地域の繁栄への力強い歩みを積み重ねてきました。高度経済成長により臨海部の工業地帯は大きく成長を遂げ、基幹的な道路や橋梁、新幹線、空港など、県土基盤の整備も進展しました。世界的な研究施設の立地も進むなど、今日の飛躍へ

の礎を盤石にした時代と言えます。

一方で、数々の困難にも見舞われました。高度成長のひずみとして深刻な公害が発生し、行き過ぎた人口偏在による過密過疎問題が顕在化しました。さらに、人口減少社会が間近に到来しようとする中、未曾有の災禍となる阪神・淡路大震災が発生しました。幾多の困難に対し、兵庫県民は進取の気性をもってこれらを克服し、「創造的復興」を成し遂げるとともに、新たな価値観や仕組みを生み出してきました。

昭和から平成、そして令和という新時代を迎えた私たちは今、再び大きな試練にさらされています。未知の疾病として世界中にまん延した新型コロナウイルス感染症、緊迫する国際情勢、地球規模の気候変動。歴史の岐路とも言える混沌とした状況の中、「技術革新」や「SDGs」「脱炭素」といった新たな潮流にも的確に対応し、社会の持続可能性を高めながら、更なる飛躍を目指すべきときを迎えています。

本書に記された先人たちの努力や様々な取組は、今を生きる私たちにとつ

て貴重な道しるべとなることでしょう。本書が多くの皆様に活用されることを願ってやみません。

結びに、全体監修者の福永文夫獨協大学教授や、原稿執筆にあたっていただいた執筆者の皆様、編纂委員長の五百旗頭真先生、編集会議座長の御厨貴先生をはじめとする編纂委員会委員・編集会議委員の皆様、その他関係者各位に心から感謝申し上げます。

令和五年三月

兵庫県知事

齋藤元彦

